



下田市議会議長
土屋 忍



下田市長
楠山 俊介

あけまして おめでとうございませう

あけましておめでとうございませう。市民の皆様には輝かしい新春を健やかに迎えたいと、心からお慶び申し上げます。旧年中は、市政に對しましてご理解とご協力を賜り心より深く感謝申し上げます。

新年の始まり、元日、一年で最初に見る夢を「初夢」と言いますが、初夢で縁起が良いとされるものに「一富士二鷹三茄子」があります。

静岡大学名誉教授小和田哲男先生の著書に「初夢の縁起物は静岡県に大きく関連していた」との記述があります。それによると、「一富士二鷹三茄子」が縁起物とされるようになったのは江戸時代の初めと言われ、駿府城に居た徳川家康が好んだ物がこの三つであり、当時大きな権威を持っていた家康が好むものを縁起物とされたということです。

「富士」は日本一の山、それは「見る美しさ」です。「鷹」は「愛鷹山」からきており、趣味の鷹狩りを楽しんだこと、その「遊ぶ楽しさ」が由来です。「茄子」は駿河で採れる茄子が美味、好物で、その「食べる美味しさ」が由来です。

あけましておめでとうございませう。皆様には、夢と希望溢れる新年をお迎えのこと、心からお祝い申し上げます。

また、日頃から市政に対する温かいご理解とご協力を賜り、心より厚くお礼申し上げます。

昨年日本創世会議の発表によると、下田市は2040年の人口推計で消滅の可能性がある市とされました。特に県内11市町の内、8市町が伊豆地域に集中しています。

人口流出を止め、一定人口を維持して活力ある地域づくりを進める事が急務です。この方策の一つとして、伊豆半島全域に多様な整備効果が期待される伊豆縦貫自動車道の早期全線開通は地域の生き残りをかけた命題と考えます。伊豆縦貫自動車道は、観光を中心とした地域産業の活性化や物流の効率化、救急医療施設への搬送、さらには大規模災害等における緊急輸送路など、安全・安心な生活環境を確保するためにも不可欠だと思います。

昨年市議会有志、地域の代表の皆様と共に財務省、国土交通省などに数回要望活動

を行ってまいりましたが、本年もさらに皆様のご協力を得て実施してまいりたいと思っております。

昨年下田市の国際姉妹都市であるアメリカロードアイランド州ニューポート市へ中学生的の代表4名、引率の先生や市民の代表の方々を訪問させていただきました。

中学生の皆さんはホームステイを通じ、地元の人たちと交流を深め楽しく元気に有意義な時間を過ごせている様子でした。

私も市民との交流を深めるためとして行われた「風作り」でカタコトの英語とジェスチャーで交流を深めることができたと感じております。

庁舎建設につきましては、建設計画位置が二転三転してまいりましたが、防災上津波浸水域外であること、市民の

まさに、三つの縁起物「見る・美しさ」「遊ぶ・楽しさ」「食べる・美味しさ」は観光の原点、観光の活力です。観光は私たちのまちの中核産業、総合産業、地場産業です。各地域、各産業が一体となった循環型の地域経済を構築していくため、「下田市観光まちづくり推進計画」を基に、日本中、世界中の人々が「下田」行って三つの縁起物を楽しみたい」との夢を実現できるように素敵なまちづくりを進めていきます。

新庁舎建設につきましては、提示いたしました敷根民有地を最終候補地として作業を進めております。就任以来、決定に向け、庁内、議会において、市民説明会等においてしっかりと検討させていただきましたが、市民の皆様は、二転三転、混沌の印象を与えてしまった感がありましたらお詫び申し上げます。この間の論議、目的は、利用される市民の皆様への「利便性」、災害時その機能を十分発揮できるための「安全性」、弱い財政力として無理のない建設費や交付金制度を考慮した「経済性」等をバ



昨年市議会有志、地域の代表の皆様と共に財務省、国土交通省などに数回要望活動を行ってまいりましたが、本年もさらに皆様のご協力を得て実施してまいりたいと思っております。

昨年下田市の国際姉妹都市であるアメリカロードアイランド州ニューポート市へ中学生的の代表4名、引率の先生や市民の代表の方々を訪問させていただきました。

中学生の皆さんはホームステイを通じ、地元の人たちと交流を深め楽しく元気に有意義な時間を過ごせている様子でした。

私も市民との交流を深めるためとして行われた「風作り」でカタコトの英語とジェスチャーで交流を深めることができたと感じております。

庁舎建設につきましては、建設計画位置が二転三転してまいりましたが、防災上津波浸水域外であること、市民の

まさに、三つの縁起物「見る・美しさ」「遊ぶ・楽しさ」「食べる・美味しさ」は観光の原点、観光の活力です。観光は私たちのまちの中核産業、総合産業、地場産業です。各地域、各産業が一体となった循環型の地域経済を構築していくため、「下田市観光まちづくり推進計画」を基に、日本中、世界中の人々が「下田」行って三つの縁起物を楽しみたい」との夢を実現できるように素敵なまちづくりを進めていきます。

新庁舎建設につきましては、提示いたしました敷根民有地を最終候補地として作業を進めております。就任以来、決定に向け、庁内、議会において、市民説明会等においてしっかりと検討させていただきましたが、市民の皆様は、二転三転、混沌の印象を与えてしまった感がありましたらお詫び申し上げます。この間の論議、目的は、利用される市民の皆様への「利便性」、災害時その機能を十分発揮できるための「安全性」、弱い財政力として無理のない建設費や交付金制度を考慮した「経済性」等をバ

ランスよく検討すべきとの意図であり「多目的最適化」としての結果であることのご理解をお願いいたします。本年より計画、設計、施工と進み、平成30年開庁を目指します。伊豆縦貫自動車道全線開通は「命の道」と同時に「伊豆はひとつ」の実現への重要な手立てです。道づくりとともに「暮らす人も訪れる人も快適なまち『快国』下田」のまちづくりを創造してまいります。